

第 26 回 東北森林科学会大会

2021(令和3)年度

プログラム

期 間 2021 年 11 月 30 日(火)～12 月 1 日(水)

形 式 オンライン開催

主 催 東北森林科学会

共 催 一般社団法人 日本森林学会
一般社団法人 日本森林技術協会

後 援 宮城県

第 26 回 東北森林科学会 大会運営事務局
株式会社センキョウ内
TEL:022-236-7161 E-mail:tsfs26@senkyo.co.jp

第 26 回 東北森林科学会 大会運営委員会
山形大学農学部食料生命環境学科内

大会日程

	11月30日(火)	12月1日(水)	
			9:00
		ポスターセッションC	10:00
			10:30
11:00	ポスターセッションA	ポスターセッションD	11:30
12:00			
13:00	ポスターセッションB		
14:00	テーマ別セッション		
16:00			

11月26日(金) 10:00 ~ 12月1日(水) 17:00

ポスターセッション発表者 e-ポスター掲示：大会参加者閲覧期間

11月30日(火)

開会宣言（第26回東北森林科学会大会運営委員会委員長）動画配信

10:55~11:00

ポスターセッションコアタイム [1日目]

11:00~12:00 ポスターセッション A

13:00~14:00 ポスターセッション B

テーマ別セッション

14:00~16:00 テーマ「再生された海岸防災林における今後の管理・利用に向けた取組」

12月1日(水)

ポスターセッションコアタイム [2日目]

09:00~10:00 ポスターセッション C

10:30~11:30 ポスターセッション D

講評・閉会挨拶（東北森林科学会会長）オンライン配信

11:30~11:35

* 学生優秀発表賞

学生優秀発表賞（学生ポスター賞）は、エントリーした学生が発表する11月30日（火）のポスターセッション B（B-4~B-7）から選考され、後日、学会ウェブ上で受賞者を公表します。

テーマ別セッション

11 月 30 日（火）14:00～16:00

テーマ「再生された海岸防災林における今後の管理・利用に向けた取組」

コーディネーター：清和研二（東北大学名誉教授）

東日本大震災による津波被害で甚大な被害を受けた宮城県内の海岸防災林は、抵抗性クロマツの植栽等により、概ね復旧が完了した。最も初期の植栽箇所では樹高が4メートルに達し、林冠も閉鎖しつつある中、今後は、約1,370ヘクタールの海岸防災林を適切に保育管理していかなければならないが、膨大な一斉造林地の管理計画は不透明な部分が多いこと、できるだけ効率的な手法を模索する必要があること、突発的な病虫害の発生や気象災害への対策に配慮していく必要があること、さらには、民間団体の協力も得て海岸防災林の認知度を高め、従来のような民力を活用した管理体制を回復していく必要があることなど、多くの課題がある。

本セッションでは、これらの取組の現状や課題を紹介し、今後の海岸防災林の管理及び利用のあり方について意見交換を行いたい。

1 これまでの仙台湾沿岸海岸防災林復旧事業と今後について

飯島和博（東北森林管理局 仙台森林管理署）

2 海岸防災林の保育管理方法の現地検証と今後の課題

名取史晃，田中一登（宮城県林業技術総合センター）

3 UAVを用いた海岸防災林の生育調査の実証について

佐藤裕之（宮城県仙台地方振興事務所 林業振興部），
千葉朋彦（宮城県水産林政部森林整備課）

4 再生された海岸防災林におけるマツ材線虫病対策

中村克典（森林総合研究所東北支所）

5 海岸防災林の課題解決に向けた取組について

橋爪有子（宮城県水産林政部森林整備課）

ポスターセッションコアタイム

11 月 30 日（火）[1 日目]

11:00～12:00 ポスターセッション A

13:00～14:00 ポスターセッション B

■ポスターセッション A

A-1※

A-2 森林利用の現状からみた福島における森林管理の課題

木村憲一郎（福島県林業研究センター）

A-3 伐採時期と伐採高がオノエヤナギの萌芽量に及ぼす影響

宮下智弘，後藤伸幸，渡部公一（山形県森林研究研修センター），矢野慶介，谷口 亨（(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター東北育種場）

A-4 底面かん水マットを使用したカラマツコンテナ苗のかん水方法の検討

渡部公一（山形県森林研究センター）

A-5 早生樹オノエヤナギにおける冬期間の穂木の簡易的な貯蔵方法の検討

矢野慶介，谷口 亨（(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター東北育種場），宮下智弘（山形県森林研究研修センター）

A-6 平庭高原の小面積皆伐地におけるシラカンバの更新状況

酒井 敦（(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所），島田直明（岩手県立大学）

A-7 東北地方におけるユリノキの活着と初期成長

青山岳彦（東北森林管理局森林技術・支援センター）

A-8 山形県の広葉樹二次林における用材生産の可能性

高橋 文（山形県森林研究研修センター），太田敬之（森林総合研究所），酒井 敦，小谷英司（森林総合研究所東北支所）

※ A-1 は、D-8 へ移動になりましたので、欠番となっています。

- B-1 東日本大震の津波被害後に三沢市の海岸に植栽された広葉樹の9年間の生存と成長
太田敬之（森林総合研究所），萩野裕章（森林総合研究所東北支所），野口宏典，
小野賢二，八木橋勉（森林総合研究所），中村克典（森林総合研究所東北支所）
- B-2 ハタケシメジ空調施設栽培品種の簡易施設栽培方法による現地適応試験
今埜実希，目黒 渚，玉田克志（宮城県林業技術総合センター），渡邊広大（宮城
県環境生活部環境対策課），佐藤資之（宮城県食用茸協同組合）
- B-3 宮城県におけるカラマツ挿し木苗生産技術の開発
山崎修宜（宮城県林業技術総合センター）
- B-4 林道通過車両が中大型食肉目の活動パターンに与える影響
渡部凌我，斎藤昌幸（山形大学農学部）
- B-5 庄内地方に生息するニホンリスの営巣場所選択：複数の空間スケールによる評価の
重要性
本田鈴香，斎藤昌幸（山形大学農学部）
- B-6 山形県庄内地方におけるサクラてんぐ巣病発生状況
千葉諒子（山形大学大学院農学研究科），斉藤正一，芦谷竜矢（山形大学農学部）
- B-7 樹木含有テルペノイドの *Raffaelea quercivora* に対する抗菌活性
松谷 裕，斉藤正一，芦谷竜矢（山形大学農学部）

12 月 1 日 (水) [2 日目]

09:00～10:00 ポスターセッション C

10:30～11:30 ポスターセッション D

■ポスターセッション C

C-1 鶴岡市のスギ林内におけるオオバクロモジの資源量 I

～スギ林内のオオバクロモジのサイズと生育本数～

斉藤正一, 芦谷竜矢, 大橋なほか, 千葉諒子, 佐々木瑠偉, 松谷 裕 (山形大学農学部), 佐藤聖子, 浅野 浩 (山形県庄内総合支庁)

C-2 青森県内から収集したシイタケ野生株のビタミン D2 濃度

土屋 慧 (地方独立行政法人青森県産業技術センター林業研究所)

C-3 ドローン空撮写真による海岸防災林植栽木の樹高推定

斎藤直彦 (福島県林業研究センター)

C-4 釜淵森林理水試験地における間伐から 3 年目までの浮遊土砂流出量

阿部俊夫 (森林総合研究所東北支所), 久保田多余子, 小川泰浩, 村上 亘 (森林総合研究所)

C-5 宮城県産スギ未利用資源の CLT ラミナへの活用

県産スギ未利用資源 CLT ラミナ活用プロジェクトチーム (宮城県 CLT 等普及推進協議会), 大西裕二 (宮城県林業技術総合センター)

C-6 ハタケシメジの菌糸選抜による菌株劣化対策

玉田克志, 目黒 渚 (宮城県林業技術総合センター)

C-7 ミニチュア採種園におけるスギ特定母樹の繁殖特性

川上鉄也, 飯島健史 (福島県林業研究センター)

C-8 簡易施設を利用したクロモジ挿し木増殖方法の検討

大高千怜, 飯島健史 (福島県林業研究センター)

■ポスターセッション D

- D-1 植栽密度の異なる 19 年生スギ林の林分構造と成長
田村浩喜，和田 覚（秋田県林業研究研修センター）
- D-2 UAV 撮影画像と RTK-GNSS を活用したナラ枯れ被害調査
村上尚徳，小岩俊行（岩手県林業技術センター）
- D-3 地上レーザスキャナーによる広葉樹林のパルプ向け立木評価手法の開発
小谷英司，大塚生美（森林総合研究所東北支所），太田敬之（森林総合研究所）
- D-4 宮城県内のコナラ萌芽枝の放射性物質濃度推移
目黒 渚，玉田克志（宮城県林業技術総合センター）
- D-5 ササ類の新規微粉碎物の培地への利用によるシイタケ栽培期間短縮と増収効果
菅原冬樹，三浦正嗣，丹羽奎太（秋田県林業研究研修センター），玉井 裕（北海道大学），高橋武彦（秋田県立大学システム科学技術），栗本康司，高田克彦（秋田県立大学木材高度加工研究所）
- D-6 オオシラビソの種子サイズと充実率の関係
河部恭子（宮城県林業技術総合センター），我妻智浩（東北森林管理局仙台森林管理署）
- D-7 屋外スギミニチュア採種園において園外花粉の影響を軽減する簡易な手法の検索
佐藤博文，三浦正嗣，丹羽奎太（秋田県林業研究研修センター）
- D-8 広葉樹材の価格変動－岩手県を事例として－
大塚生美（森林総合研究所東北支所），道中哲也（森林総合研究所），小谷英司（森林総合研究所東北支所），太田敬之（森林総合研究所）